

ナンバリングコード B1THA-dceG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000001)	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 3Q月5	対象年次 1～
主題A「人生とキャリア」 Life and Career	水準 学士: 入門科目 分野 主題A	提供部局: 大教センター DPコード: dce	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
人生選択の社会学 (Sociology for Choice of Life)	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 時岡 晴美	関連授業科目 社会学		
	履修推奨科目 特になし。		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習			
授業の概要 21世紀社会においては、人生の種々の場面や日々の日常生活において選択を迫られることが多く、生活者にとっての選択肢も多様に用意されている。真に自分らしい生き方を実現するために、よりよい選択をするための基礎的知識として現代社会を読み解き、生活者としてライフコースを構想する力を培うものである。			
授業の目的 社会の実態と関連付けながら、ワークショップによる検討を交えて実態的に考察するとともに、自己のキャリアについてビジョンを描いていく。21世紀社会の現状を理解し、地域に特有の課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。社会において自己が果たすべき役割や、市民としての責任ある行動について理解を深め、実践することができる。			
到達目標 ①大学生として高等教育の意義を理解し、自己のキャリア選択について実態的にビジョンが持てる。共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応。 ②21世紀社会における課題とその解決策について探求し、地域特有の課題について理解を深め、社会において自己が果たすべき役割について理解し実践できる。共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」「地域に関する関心と理解力」に対応。 ③市民としての責任ある行動を実践することができる。共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応。			
成績評価の方法と基準 テーマ毎の小レポートで50%、最終回に課す課題レポートで50%。欠席は減点。 ワークショップにあっては特に意欲を持って積極的に取り組めた学生には相応に加点する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 3つのテーマについて、講義・グループ討議・発表とまとめ、として進める。 講義では、生活主体である学生の課題として、また、それを取り巻く現代社会の特徴などといった両者からのアプローチで取り上げていく。 1. オリエンテーション: 現代社会におけるライフコース 2. 第1ブロック: これまでの自分史からみた「人生の選択」 3. 同: グループ分け、アイスブレイクとグループ討議 4. 第2ブロック: 生活に必要なとされる倫理的課題 5. 同: グループ討議と課題整理 6. 第3ブロック: ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて 7. 同: グループ討議と課題整理 8. まとめ: これからの「人生の選択」、私の人生の昨日・今日・明日を考える 3ブロックそれぞれにグループ討議を課しているので、講義をふまえてテーマ内容について検討・考察するという自学自習が必要である。テーマごとにワークシートに沿って準備学習等を行うことで活発なグループ討議が可能になり、それによって学ぶ内容が深められたり実感を持てるなど充実した成果が得られる。逆に、準備不足でグループ討議に参加できないなどのケースがあれば、所属するグループ全員の学習効果が下がることもあるため、しっかり準備することが求められる。 [自学自習のためのアドバイス]各ブロックでは、テーマに沿って社会学の理論を解説したり現代社会を解説するという授業構成になっているので、講義で紹介されたキーワードについて新たな知見を得たり、関連する内容について検討するなど、意見を構成するためのエビデンスを収集することが必要となる。			
教科書・参考書等 特に指定しない。 必要な回に提示する。			
オフィスアワー 金曜日5時限目から19時まで 研究室の場所は、幸町北キャンパス8号館5階			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 講義を受講し、グループ討議に参加、これらをふまえてレポートを作成、という形で進めていくので、グループ討議に参加してしっかり議論することが求められる。 さらに、これらをふまえて自己の問題としてレポートを作成することになるので、各テーマに主体的に取り組んでいくことが必要である。			

ナンバリングコード B1THA-dabG-10-Lg1	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 1Q金1	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000002)	水準 学士: 入門科目 分野 主題A	提供部局: 大教センター DPコード: dab	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
主題A「人生とキャリア」 Life and Career	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
想像力の教室 Reflections on Imagination	関連授業科目 哲学A, 哲学B, 倫理学C		
担当教員名 佐藤 慶太	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習(事前学習15時間相当 + 事後学習15時間相当)			
授業の概要 過去や未来の世界、他者の痛み、ユートピア、ファンタジー…。人間は想像力によって様々なものを思い描きます。人間はこの能力を通じて、社会を改善したり、他者と豊かな人間関係を作り上げたりすることができます。一方で想像力の過剰／暴走が、自分や他者を傷つけることもありえます。このような二面性をもつ「想像力」にどのように向き合っていけばよいのでしょうか。この授業では「想像力」にそなわる可能性を哲学的に考察します。			
授業の目的 人間として生きるうえで「想像力」が果たす役割を哲学的に考察することを通じて、そこで生じる諸問題について、自分の主張を論証できるようになる。			
到達目標 1. 社会において自分が果たすべき役割や、市民としての責任ある行動について理解を深め、そこから自己や社会の未来について考えることができる。 (共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応) 2. 「想像力」について、どのような哲学的な論点があるか、理解することができる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 3. 「想像力」に関する哲学的な問題について、自分の意見を述べ、根拠づけることができる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業での課題への取組(40%: 到達目標1、2に対応)と、レポート(60%: 到達目標3に対応)によって評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1週 オリエンテーションー「想像力」を養うことの意義 第2週 他者と想像力①ーメディアと想像力 第3週 他者と想像力②ーフィクションと想像力 第4週 他者と想像力③ーフィクションと想像力 第5週 社会と想像力①ー「市民としての責任感と倫理観」と想像力 第6週 社会と想像力②ー社会のルールと文化的多様性 第7週 未来を想像することの意義 第8週 まとめ 【授業及び学習の方法】 授業は、講義とワークの時間によって構成されます。講義の時間では、担当教員が想像力についての哲学者の考えや関連する現代の問題について解説します。ワークの時間では、教員が提示した問題について、グループでのディスカッションやミニレポートに取り組んでももらいます。 【自学自習のためのアドバイス】 概ね、次回で扱うテーマについての下調べと、グループディスカッションのテーマについてあらかじめ考えてくることが求められます。授業中に指示、アドバイスをしますので、それに従ってください。			
教科書・参考書等 教科書: 授業中にプリントを配布します。参考書: 授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー 木曜日12:00～14:00 佐藤慶太研究室(教育学部5号館5F)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ ・グループワークがありますので、やむを得ない場合を除いて遅刻・欠席をしないようにしてください。			

ナンバリングコード B1THA-dbxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000003)	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 3Q木5	対象年次 1～
主題A「人生とキャリア」 Life and Career	水準 学士: 入門科目 分野 主題A	提供部局: 大教センター DPコード: dbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
キャンパスライフ入門 Campus Life for Beginners	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 西本 佳代	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 一年生の皆さんは、どのようなキャンパスライフを送りたいと思っていますか。この授業では、大学の歴史、一市民としての社会とのかかわり方、就職活動に必要なもの等のキャンパスライフを送るにあたっての基礎的な知識を学びながら、社会で働くようになる4年後（あるいは6年後）に向けて、どのようなキャンパスライフを送ればよいのか考えます。			
授業の目的 大学の歴史、就職活動に関する情報など、大学一年生が知っておくべき基礎的な知識を身につけると共に、社会において自己が果たすべき役割や、市民としての責任ある行動について理解を深めることができる。			
到達目標 ①大学の歴史、就職活動に関する情報など、大学一年生が知っておくべき基礎的な知識を身につけることができる（共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応）。 ②社会において自己が果たすべき役割や、市民としての責任ある行動について理解を深めることができる（共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応）。 ③グループワークの中で他者とのコミュニケーションをはかりながら、自分の意見を表現することができる。			
成績評価の方法と基準 授業態度30%、プレゼンテーション30%、レポート40%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1週 オリエンテーション 第2週 市民としての責任感と倫理観① ー身近な犯罪ー 第3週 市民としての責任感と倫理観② ー人間関係ー 第4週 大学の歴史 第5週 大学で何を学ぶのか 第6週 就職活動に必要なもの 第7週 プレゼンテーション: 4年後（あるいは6年後）に向けて 第8週 まとめ（45分授業） 【授業及び学習の方法】 授業では適宜グループワークを行います。また、パワーポイントによるプレゼンテーション、それをふまえた上でのレポートが課されます。 【自学自習のためのアドバイス】 第1～6週 プレゼンテーション「4年後（あるいは6年後）に向けて」のために準備する。 第7、8週 プレゼンテーションをふまえてレポートを作成する。			
教科書・参考書等 教科書・参考書等は授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー 水曜日第2講時（10:30～12:00）。5号館4階西本研究室。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ ・15分以上の遅刻は欠席として扱います。 ・第7週のプレゼンテーション未報告者・レポート課題未提出者は評価の対象としません（公欠等の特別な事情を除く）。 ・グループワーク中心の授業形態のため、受講者数は100名程度とします。			

ナンバリングコード B1THA-decG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000004)	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 1Q金1	対象年次 1～
主題A「人生とキャリア」 Life and Career	水準 学士: 入門科目 分野 主題A	提供部局: 大教センター DPコード: dec	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
地方で生きるということを考える Discuss Living in the Countryside	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 大村 隆史	関連授業科目 なし 履修推奨科目 なし		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習			
授業の概要 本授業では「私はどこで、どのように生きていくか」という問いを軸とした講義とグループワークを行います。従来の東京一極集中の時代から、地方創生の時代へと移りゆく昨今の状況を踏まえて、受講者自身が主体的に考え、自分たちの場所を自分たちで作っていくこと、ひいては社会や公共の担い手としての自覚を獲得していくことにつながる学びの場を用意します。 具体的には、各回のテーマに関する講義を行ったあと、地方で暮らし、はたらく人びとに関するいくつかの事例について、グループでディスカッションをさせ、「地方」「暮らし」「仕事」といった人生とキャリアに関わる概念をめぐるそれぞれの率直なイメージを共有させ、自分の価値観を含む様々な価値観との出会いの場を創出します。			
授業の目的 「地方で生きること」をテーマとした学習を通じて、市民としての責任ある行動について理解を深め、そこから自己や社会の未来について考えることができる。			
到達目標			
1. 「地方で生きること」の特徴を的確に捉えて議論に参加することができる。(共通教育スタンダード「地域に関する関心と理解力」に対応) 2. 自分自身の人生とキャリアに照らしながら、主体的に「地方で生きること」の可能性と課題を論じることができる(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 市民としての責任感や倫理観について理解を深め、「地方で生きること」と関連づけて論じることができる(共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応)。			
成績評価の方法と基準 毎回の授業の参加姿勢や提出レポートを中心に平常の評価を行う。さらに、期末に課すレポートの評価とあわせて、総合的に評価を行う。(各回レポート30%、グループワーク30%、最終レポート40%)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業及び学習の方法】 授業は第1～3回にテーマの論点と関わるいくつかの視点を提示し、事例検討に向けた学習をする。第4～7回に事例検討を中心としたグループワークを行い、討議の成果をグループ間で共有する。ここでは、3～4名程度で1組のグループになり、報告担当者が中心となって討議を進める。各事例を読み解く際の視点や論点、グループワークの進め方等については、教員から手引きが示されるため、討論の進め方がわからない者でも問題なく参加することができるよう用意されている。第8回に振り返りとまとめをする。 なお、毎授業の最後にはミニレポートを書く。各回のテーマに関する資料はその都度提示する。			
【授業計画】 第1回 ガイダンス、グルーピング、授業テーマの共有 授業の目的・内容・方法についてシラバスを用いて確認する。アイスブレイク等を兼ねたグルーピングをし、グループごとに着席する。授業テーマ「地方で生きるということ」について簡単なワークを行い、テーマに対する初期イメージの確認をする。			
第2回 日本の都市化と東京一極集中 日本の教育機関の変遷を軸に据え、東京近郊の都市化が進むとともに地方の人口流出が激化していく経緯を概観する。キーワードとして「立身出世」、「金の卵」、「青年団」、「自己教育運動」などがある。			
第3回 コミュニティ政策の転換と地方創生 都市問題が顕在化するなか、地域住民同士の連帯とネットワーキングが政策的に重視されはじめた時代の特徴を理解する。キーワードとして、「地域福祉」、「ボランティア」、「自己実現」などがある。			
第4回 事例検討GW 「いま、地方で生きるということ」1 グループワークを通じて、市民としての責任感と倫理観に関する理解を深める。			
第5回 事例検討GW 「いま、地方で生きるということ」2 グループワークを通じて、市民としての責任感と倫理観に関する理解を深める。			

第6回 事例検討GW 「いま、地方で生きるということ」 3

グループワークを通じて、市民としての責任感と倫理観に関する理解を深める。

第7回 事例検討GW 「いま、地方で生きるということ」 4

グループワークを通じて、市民としての責任感と倫理観に関する理解を深める。

第8回 まとめ、振り返り

【自学自習のためのアドバイス】

本授業は「地方で生きるということ」というテーマを軸に、講義とグループワークを行う。講義の内容については、就学や進学、社会移動という進路選択に関する言葉や、コミュニティ、ケア、地方財政といった言葉を扱う。そのため、これらの言葉に関連する情報を図書や新聞等の情報源から予習しておくことが望ましい。また、講義の際には参考文献を適宜示す。そこで紹介された文献やウェブサイトにアクセスし復習を行うことが望ましい。グループワークについては、授業時間外にグループで取り組む作業が課された際に、グループメンバー同士でのコミュニケーションの機会をしっかりと取って、情報共有と意見交換を行うことが望ましい。

教科書・参考書等

木村元『学校の戦後史』岩波新書，2015年（本体780円＋税）。中央図書館に所蔵有。

広井良典『創造的福祉社会-「成長」後の社会構想と人間・地域・価値』ちくま新書，2011年（本体860円＋税）

※第1～3回の授業の参考文献です。

西村佳哲『いま、地方で生きるということ』ミシマ社，2011年（本体1,700円＋税）

あるいは、同著者、タイトルの文庫版（筑摩書房，2019年，本体860円＋税）もある。

※第4～7回のグループワークの際の検討資料として使用します。授業の際には該当箇所のコピーを配布する予定ですので、購入は必須ではありません。関心のある方は購入して一読することをお勧めします。

オフィスアワー 研究交流棟 6 階地域連携・生涯学習センター大村研究室

金曜日10:30から13:00までをオフィスアワーとする。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

グループワーク中心の授業形態のため、教室のキャパシティから受講者数は90名以内とする。

ナンバリングコード B1THA-daxG-10-Lg1	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 1Q火2	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000005)	水準 学士: 入門科目 分野 主題A	提供部局: 大教センター DPコード: dax	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
主題A「人生とキャリア」 Life and Career	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
多様な人々と「仕事」をしていくための基礎を学ぶ To learn the basics of working with a variety of people			
担当教員名 葛城 浩一	関連授業科目 なし		
	履修推奨科目 なし		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習 (準備学習20時間 + 事後学習10時間)			
授業の概要			
この授業でいう「仕事」とは、職業としての仕事のことで必ずしもなく、「何かを作り出す、または、成し遂げるための行動」のことを意味しています。年齢や立場、価値観等の異なる多様な人々と「仕事」をしていくための基礎を学んでおくことは、有意義な学生生活を送る上でも非常に重要です。この授業では、「社会人基礎力」(経済産業省)の「チームで働く力」を手がかりに、その基礎についてグループワークを交えながら体験的に学びます。			
授業の目的			
多様な人々と「仕事」をしていくために、「チームで働く力」の各能力要素についての基礎的な理解を得るとともに、それらと今後の学生生活とを関連づけることができるようになる。			
到達目標			
1.「チームで働く力」の各能力要素について、重要だと感じたこと、気づいたこと等を他者にわかるように表現することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応、また特に「規律性」は、共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に強く対応)。 2.「チームで働く力」の各能力要素についての学びをふまえて、今後の学生生活の過ごし方について具体的に表現することができる(共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
レポート 60%(到達目標1に対応) 最終レポート 40%(到達目標2に対応)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 「チームで働く力」の各能力要素について、グループワークを交えながら体験的に学んでいきます。			
【授業計画】 第1回 「仕事」とは何か？ 第2回 「発信力」を学ぶ 第3回 「傾聴力」を学ぶ 第4回 「規律性」(「市民としての責任感と倫理観」)を学ぶ 第5回 「ストレスコントロール力」を学ぶ 第6回 「柔軟性」を学ぶ 第7回 「状況把握力」を学ぶ 第8回 まとめ:今後の学生生活をどう過ごしたらよいか？			
【自学自習に関するアドバイス】 第2～7回 「チームで働く力」の各能力要素について、重要だと感じたこと、気づいたこと等をレポートにまとめる(A4(40字×36行)で1枚)。なお、このレポートを用いて、次の回の授業の冒頭で、前の回の授業のふりかえりを行うので、忘れずに持参すること。 第8回 これまでの授業の内容をふまえて、今後の学生生活をどう過ごしたらよいと思うか、最終レポートにまとめる。			
教科書・参考書等			
なし			
オフィスアワー 授業日12時半から13時半まで 研究室は教育学部キャンパス4号館3階			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
グループワーク中心の授業形態のため、受講者数は100名程度とする。 事前連絡なしでの欠席・遅刻があった場合には、1回につき5点の減点とする。			

ナンバリングコード B1THA-dcbG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000006) 主題A「人生とキャリア」 Life and Career 私たち(主権者)と公共・代表 We as the sovereign and public life, representatives	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 1Q火2	対象年次 1～
	水準 学士: 入門科目 分野 主題A	提供部局 : 大教センター DPコード : dcb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
	担当教員名 三野 靖, 堤 英敬	関連授業科目 履修推奨科目	
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習(準備学習20時間+事後学習10時間)			
授業の概要 この授業の前半では、今日の公共的課題(男女共同参画に関する問題と若者の引きこもり問題)についてグループで議論し、それを解決するための政策立案を行います。世の中に存在する社会問題をめぐっては様々な価値観や考え方がありますが、そうした多様性を理解し、お互いの違いを認めた上で、多面的な観点から思考するとともに、合意形成の方向性を探っていきます。後半は、私たちの意思が代表者の選出を介して、政策の決定にどのように繋がっていくのかを、模擬選挙を通じて学びます。			
授業の目的 国や地方自治体の活動や、地域や社会における様々な課題(「公共的課題」)が「私たち(主権者)」の生活とどう関わっているかを考え、議論するなかで、政策を決定し実施する国や自治体の代表者(「代表」)を選ぶことの意義、ひいては主権者としての意識の醸成とその責任について考えることが、この授業の目的です。			
到達目標			
1. 公共的課題が自らの生活とどう関わっているか、関わってくるかを理解できる。(共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応) 2. 公共的課題について多様な価値観や考え方を理解し、多面的に思考することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 3. 公共的課題について、他者と協働的に議論することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 4. 公共的課題を解決するための政治のあり方、代表の意義、主権者としての責任について思考することができる。(共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」、「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
成績評価の方法と基準			
授業への参加の度合(40%)、グループ報告の内容と政策討論会での対応(20%)、公共的課題に関するレポート(35%)、模擬選挙に関するレポート(5%)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業及び学習の方法】 基本的に、6人程度のグループによるグループ・ワークを中心として授業を進めます。前半(第2週～第6週)は、男女共同参画に関する問題もしくは若者の引きこもりの問題をテーマとして、グループでの議論を通じた政策立案を行います。第6週には各グループの報告と政策討論会を行う予定です。また、後半は模擬選挙を実施します。第7週には、実際の政党に投票する形式での模擬選挙を行い、それを受けて第8週に投票や選挙についての意見交換を行います。			
【授業計画】 第1週 ガイダンス、国や地方自治体の政治制度・選挙制度 第2週 現代の公共的課題: 男女共同参画・地方と都市の格差 第3週 グループ討議(1): 男女共同参画・若者の引きこもり問題に関する論点整理 第4週 グループ討議(2): 男女共同参画・若者の引きこもり問題に関する現状把握 第5週 グループ討議(3): 男女共同参画・若者の引きこもり問題に対する政策立案 第6週 グループ報告と政策討論会 第7週 国政選挙を題材とした模擬投票 第8週 模擬投票の振り返り(45分授業)			
【自学自習の指示】 第3週 グループ内で分担して、政策課題の論点を用意する(3時間)。 第4週 グループ内で分担して、課題の現状が把握できる資料を用意する(3時間)。 第5週 グループ内で分担して、政策課題の解決に資する政策を考える(3時間)。 第6週 グループで報告資料の作成など報告・討論の準備を行う(6時間)。第8週までに、政策立案に関するレポートを作成する(8時間) 第7週 配付資料などを参考にしながら、模擬選挙での投票政党を考える(3時間)。 第8週 模擬選挙を振り返り、模擬選挙での投票についてレポートを作成する(4時間)。			

教科書・参考書等

教科書は使用しません。

【参考書】

総務省・文部科学省『私たちが拓く日本の未来：有権者として求められる力を身に付けるために』2015年
(http://www.soumu.go.jp/main_content/000492205.pdf)

オフィスアワー 三野：火曜13:00～14:00（研究室:幸町南6号館5F）

堤：月曜12:30～13:30（研究室:幸町南6号館5F）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

グループワーク中心の授業形態のため、受講者数は100名程度とします。

ナンバリングコード B1THA-dxxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000007)	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 1Q金2	対象年次 1～
主題A「人生とキャリア」 Life and Career	水準 学士: 入門科目 分野 主題A	提供部局: 大教センター DPコード: dxx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
働く喜び ―使命への学際的アプローチ― Joy of Working	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 村上 弥生, 柴田 潤子, 清水 裕子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回+ (まとめ45分+試験45分) ×1回+ 自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 「働くこと」は、一般的な成人の成長・発達に伴って、必然的に行う活動であると認識されているのではないだろうか。しかし、働く過程においては、個人が社会で果たすべき役割や、市民としての責任ある行動を理解することが求められる。「働くこと」とは、単なる社会活動と異なり、社会を構成する人としての「使命」といえ、また、深い意味での「喜び」をももたらすものである。「働くこと」、「働くことができる」の意味を熟考することは、新社会人となる大学生にとって意義深いことである。授業では、「働くこと」について、実学レベルから人間学レベルまでの幅広い観点から、今日的な新社会人の準備学習となるよう内容を構成した。具体的には、民俗学、看護学、法学といった分野、また実務の面から「働くこと」をとらえ、大学生のキャリア形成過程における「幸福な人生」を送るための「鍵」を手にすることができる実践的アプローチを行う。			
授業の目的 本授業は、大学生が社会のあらゆる場面で働く際に経験する戸惑いや不安を予測し、キャリア形成における準備性を高めることがねらいである。そのために、人が男女それぞれに古来、働くことについてどのような取組みを行ってきたか、働く場における人間関係の調整や倫理そして経済的・法的意味、また社会的自己存在感を見出すことなどを熟考・討論し、「働くこと」がもたらす意義や意味を深めることを目的とする。			
到達目標 1. 「働くこと」の意義や意味を説明できる。 2. 「働くことができる」ことと生活との関連を考察し、社会的自己存在感について説明できる。 3. 個人が「働くこと」をとおして社会とかかわる際に必要な人間関係と倫理・規則、自らの課題を説明できる (共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応)。 4. 働く場を持ちつつ社会生活をおくる過程における「幸福」とは何かについて考察できる。			
成績評価の方法と基準 授業への取組 (毎回のレポート提出) 40% + 試験レポート 1回 60%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1週【村上弥生】ガイダンス、「日本の伝統文化に見る働き方」 前半で授業全体に関するガイダンスを行うとともに、後半で第1回の授業として、日本における伝統的な働き方、性別役割分業および社会的にあるべき姿について、民俗学者柳田國男の説などをもとに考える。 第2週【村上弥生】「身体的特性と性別を超えた働き方について」 身体的に規定される面について再認識するとともに、働く場において性別を超えて活躍できるための方策を考える。 第3週【清水裕子】「自己存在感と幸福について」 人は家庭をもち、子どもを育てる大人になる過程で、就業定着、職業適応などが自己存在感を安定させる要因である。個人の社会活動における能力適性を考察し、幸せになるための秘訣を考える。 第4週【清水裕子】「働くことと使命について」 働くことなく病のうちにこの世を去った大学生の遺した言葉を通して、働くことと生きるものの関係について考える。 第5週【柴田潤子】「働くこととダイバーシティ」 内閣府男女共同参画局からゲスト講師を迎え、社会における女性参画推進、ダイバーシティ実現についての現状・課題・効果について考える。 第6週【柴田潤子】「経済社会と法」 労働関係のゲスト講師を迎え、経済社会における法、働き方に関する法について労働者の視点から幅広く考える。 第7週 グループ討議「働く喜び」 授業で学んだことを自分の中でまとめ、総括するとともにそれをグループ討議を通じて共有する。その内容をさらにフィードバックすることによってより広く考察する。			

第8週 まとめと試験

【授業及び学習の方法】

第1週のガイダンスで担当教員の紹介と授業の概要を説明し、評価方法等についての情報を伝える。授業は各教員が基本的に2回を担当し、民俗学、看護学、法学といった分野から、また、実際に働く場で必要となる実務的な法律や知識などをふまえて「働くこと」について講義を行う。毎回の授業後には小レポートの提出が課される。また全授業の内容を学んだうえで、グループ討議およびグループ発表を行って各自の考えをまとめ、試験レポートを作成する。

【自学自習のためのアドバイス】

この授業は働くことに関して考察するきっかけをつかむことを目的の一つとしているので、準備学習として、「働くこと」に関する情報を積極的に集めるとともに、各自で考察を行っておくようにしてほしい。また授業開始後は、各授業で紹介された参考書を事後学習として積極的に読むようにしてほしい。

自らの描いている夢や適性、起こりうるリスクなども考えられるよう授業を準備しているので、自分の卒業後の生活を現実的にとらえてみるのが望まれる。この授業をきっかけに、大学卒業後の進路や具体的な職業選択について、授業時間外に父母や知己の大人達との意見交換を積極的に行うことを期待する。

教科書・参考書等

参考書：各授業中に紹介する。

オフィスアワー 全般的な点については、男女共同参画推進室コーディネーターの村上（幸町北5号館1F・男女共同参画推進室/オフィスアワー 月、火、水曜日 9：00～16：00）へ。個々の授業内容に関しては、授業中に授業担当者に相談のこと。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

複数教員によるオムニバス形式の授業です。全教員の授業に出席することが評価の前提となります。グループワークを含む講義中心の授業形態です。

教員の実務経験との関連

3回目、4回目の担当清水は、看護師免許を取得・活用した約40年の中で、臨床や地域での実務経験をもとに授業を行います。特に国立がんセンターや大学病院でのがん看護、都内での路上生活者支援活動での実務経験をもとに授業を実施します。5回目、6回目は基本的に、学外から労働やダイバーシティ実現に関わっている講師による講義となります。

ナンバリングコード B1THA-dbxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000008)	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 1Q火1	対象年次 1～
主題A「人生とキャリア」 Life and Career	水準 学士: 入門科目 分野 主題A	提供部局: 大教センター DPコード: dbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
ワークライフバランスとキャリアデザイン Career design and work-life barance	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 小方 朋子, 片岡 元子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回+ (まとめ45分+試験45分) × 1回+ 自学自習 (準備学習20時間+事後学習10時間)			
授業の概要 あなたはどんな大人になってどんな働き方を選びますか? ワークライフバランスの提唱や働き方改革など、日本人のライフスタイルが変化してきている今、自分がどのように育てられてきたのかを振り返りながら、社会人になったときに、生活と仕事と家庭のバランスをどうとるのか、人を育てるとはどういうことなのかを考えていきます。			
授業の目的 育てられた世代から、育てる世代へととなっていくという自覚を持ちながら、現代社会の課題に向き合えることと、将来の働く自分を想像し、社会人としての責任感と倫理観を自覚できるようになること。			
到達目標 1. 現代の働き方についての課題を理解することができる。(共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」及び「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 自分はどのように育てられてきたのか、自分の育ちを客観視できる。 3. 自分の将来のライフワークバランスのビジョンを持つことができる。			
成績評価の方法と基準 授業への取り組み (ミニテスト、グループワークの活動状況、発表など) 50% (到達目標 1、2 に対応) 試験 50% (到達目標 3 に対応)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 社会を構成する大人になるということ 第2回 私の育てられ方(1) 第3回 私の育てられ方(2) 第4回 現代の子育て事情 第5回 仕事と家庭 第6回 働き方改革について 第7回 現代の労働に関する課題と自分の働き方 第8回 まとめと試験 【自学自習のためのアドバイス】 第2回、第3回は自分の名前の由来やどのように育てられたかなど思い出などを題材にするので、両親などからきいておくこと。 第5回～第7回は現代の働き方(ジェンダー問題、家事育児、働き方改革など)を扱うので、現代社会で課題とされているものの情報を集めておくこと。 第8回の試験では自分の将来についても記述することになるので、疑問等やもっと知りたいことは自分で調べておくこと。			
教科書・参考書等 資料はその都度配布します。			
オフィスアワー 小方 水曜 1 限 8号館2階 片岡 月曜 4 限 8号館5階			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ この授業はグループワーク中心のため受講生は100名程度とします。			

ナンバリングコード B1THA-dcaG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000009)	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 3Q金2	対象年次 1～
主題A「人生とキャリア」 Life and Career	水準 学士: 入門科目 分野 主題A	提供部局: 大教センター DPコード: dca	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
身近な生活における支援を考える Support in daily life	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 大沼 泰枝	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習 (準備学習10時間+事後学習20時間)			
授業の概要 私たちの社会は人が支えあうことで成り立っています。普段、健康で問題なく過ごしている時は、その存在に気を留めませんが、様々な支援が身近な生活の中にあります。まずは、家族や友人との関係について振り返り、身近な対人関係における支援について考えます。次に、大学内のピア・サポートについて学び、ピア・サポート活動が活発に行われるための方法について学生の視点で検討します。さらに、社会保障や自治体の支援制度について知り、それらの仕組みがどのように成り立ち、どのような時に活用できるのかについて学びます。			
授業の目的 この授業の目的は、私たちの生活が人や社会から支えられ、そして支えることで成り立っていることを理解することです。具体的には、家族間や友人間、学生間のサポート、国や自治体の支援制度等について学び、グループワークを通じて理解を深めます。「支援」をキーワードに、個人として果たすべき社会的役割と責任、配慮ある市民としての行動について理解し、そこから自己や社会の未来について考えます。			
到達目標			
1. 家族や友人との関係を振り返り、その経験についてグループ内で話すことができる (共通教育スタンダードの「問題解決のための汎用的スキル」に対応)。 2. 大学内のピア・サポート活動に関心を持ち、その活性化のための方法について学生の視点でアイデアを出すことができる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)。 3. 国や自治体の社会保障や支援制度を自分の生活と関連付けることができる (共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応)。			
成績評価の方法と基準 毎回の小レポート (20%) 達成目標1・2・3に対応 グループワーク (30%) 達成目標1・2・3に対応 期末テスト (50%) 達成目標2・3に対応			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション 第2回 家族関係 : 家族からの支援 第3回 子育て・介護 : 家庭内におけるケア 第4回 友人関係 : 友人関係における支援 第5回 大学内のサポート : 障害のある学生への支援 第6回 ピア・サポート : 学生間の支援 第7回 社会からの支援 : 社会保障制度、自治体の支援制度 第8回 テスト・まとめ (授業で学んだことを通じて、個人として持つべき責任感と倫理観について考える)			
【授業及び学習の方法】 講義の他に毎回グループワークを行います。			
【自主学習のためのアドバイス】 第1回 身近な生活における支援について学ぶことの意味を考える 第2回 日本の家族の現状について統計資料などに基づいて考察する 第3回 子育てや介護に関する自治体の支援事業について調べる 第4回 青年期の友人関係について考察する 第5回 大学構内のバリアフリーチェックを行う 第6回 ピア・サポート活動について調べる 第7回 社会保障制度について調べる テストに向けて講義全体の復習をする			
教科書・参考書等 適宜資料を配布します。			
オフィスアワー 金曜日 12:00～13:00 バリアフリー支援室 (5号館1階)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 家族関係や友人関係といった個人的な内容をグループワークで扱うため、互いを尊重し、配慮しあうことを			

必要とします。グループワーク中心の授業形態のため受講者数は100名程度とします。

教員の実務経験との関連

臨床心理士として、病院・相談機関・学校などで勤務経験があり、現在は障害のある学生を支援するバリアフリー支援室の業務を行っています。この授業では、「支援」をキーワードに、学生の皆さん一人ひとりが、自己や社会の未来について考える機会につなげたいと思います。

ナンバリングコード B1THA-dxxG-10-Lx1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000010)	主題科目	1Q木5	
主題A「人生とキャリア」 Life and Career	水準 学士: 入門科目 分野 主題A	提供部局: 大教センター DPコード: dxx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
生活と法 ～理系・文系学生のためのリーガル・ベーシック Life and Law 生活の中で生きている法	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 和食 俊朗	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回+45分+自学自習(事後学習 1 5 時間)			
授業の概要			
皆さんは何気なく日々の学生生活を送っているが、法は日常の暮らしや人生に深く関わっている。自分自身や近親者が思いがけないトラブルに見舞われたり、近親者が死亡したりすると、法の重要性や法が働いていることに気づく。本講義では、研究者教員のほか弁護士や元裁判官の教員が、実務的な経験を踏まえつつ、オムニバス形式で、生活の中の基本的な法律関係や生じやすいトラブルを取り上げて、法の役割や法的な考え方を説明する。			
授業の目的			
学生生活その他さまざまな生活の場面において果たしている法の重要性や法の働き方を学ぶ。この授業によって、市民としての生活上の自覚や責任感を学ぶ(共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応)ことができる。			
到達目標			
学生が、身近な生活の中においても法が働いていることやその重要性を学ぶことにより、単に学生であるということのみならず、家族の一人として、また市民として生活していることを具体例をもって認識できるようになる。それにより、社会の一員としての責任感や自覚を高めることができる。さらに、学生自身の危機管理能力の向上につなげることができる。(共通教育スタンダードの?問題解決のため汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力))、?市民としての責任感と倫理に対応)			
成績評価の方法と基準			
毎回授業に課すミニレポート(出席カード) 10%、レポート(最終回の授業時までに提出、詳細は第1回授業時に説明) 90%。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回「学生生活と法」吉田明央先生担当 ※このとき冒頭10分程度で、和食から評価方法等の説明をします。 第2回「働き方のいろいろ・正規非正規とは？」木田直太郎先生担当 第3回「紛争解決と裁判の仕組み(仮題)」元木将道先生担当 第4回「消費者被害に遭わないために」木下登裕先生担当 第5回「家族と法」和食俊朗先生担当 第6回「情報と法 個人情報保護」鹿子嶋仁先生担当 第7回「債務整理の話」籠池信宏先生担当 第8回(45分)「刑事事件とは？」和食俊朗先生担当			
自学自習のためのアドバイス 各回の授業内容について、メモ等を作成し、レジュメや資料などをもとに復習し、各テーマにおける問題点はどこにあるのか、各講師は何を伝えたかったのかなどをよく反芻する。特に、後述のように、自己が関心を持ったテーマについてレポートを作成してもらうことになっているので、そのことを意識して、レポートしたいテーマについては、充実したものとするためには、発展的に独自に調査したり考察したりすることが考えられる。 (各回2時間程度)			
なお、講師及び授業内容、順序には講師の都合で若干の変更が生ずることがある。最終回の授業開始前にレポートを提出してもらうことになっている。			
教科書・参考書等			
特になし			
オフィスアワー 四国グローバルリーガルセンター(北5号館1F)の開室時間(午前10時から午後4時)内にセンター職員に連絡(電話087-832-1776、assistants@ls.kagawa-u.ac.jp)があれば対応。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
授業出席の際には、各授業終了後、毎回出席カード(授業の感想など簡単に記載する。)を提出する。			
教員の実務経験との関連			
弁護士: 吉田明央、木田直太郎、木下登裕、籠池信宏、元木将道各先生 元裁判官: 和食俊朗先生			

ナンバリングコード B1THA-dxxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000011) 主題A「人生とキャリア」 Life and Career 地域で活躍する職業人に学ぶ ～未来へ羽ばたけ編～ Role Models of Life in Rural Communities first period	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 1Q月5	対象年次 1～
	水準 学士: 入門科目 分野 主題A	提供部局: 大教センター DPコード: dxx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 筒井 徹也	関連授業科目 主題A「地域で活躍する職業人に学ぶ」～地域を元気に編～		
	履修推奨科目 主題C「地域理解」－実践型科目 地域貢献人財育成 実践講座Ⅰ 主題C「地域理解」－実践型科目 地域貢献人財育成 実践講座Ⅱ		
学習時間 授業90分×7講＋授業45分×1講＋自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 本授業では、地域の各分野で、職業人として地域社会を支え、生き様を通じて周囲に活力を与えている人達がいることを紹介する。ゲスト講師講話では、各学部の進路に関係の深い業界から、ロールモデルとして紹介したい職業人を招聘し、業界の動向や具体的な仕事、その方の志を語って頂く。また、学生がキャリアを考える際に、具体的に活用できる代表的なキャリア理論を講義する。			
授業の目的 学生が、自らのキャリア(個々人における生涯にわたる生き方)をデザインし、そのステージにおける「人財」になっていくことを支援するため、本授業は、学生が、①キャリアに関する基本知識を理解すること、②各界のロールモデルの生き方や働き方のリアリティに触れること、③視野・見識を広げ、キャリアの選択肢を広げること、を目的にしている。			
到達目標 ①社会において自己が果たすべき役割や、市民としての責任ある行動について理解を深め、そこから自己や社会の未来について考えることができる。(共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応) ②自己のキャリア形成に役立つ基礎知識や暗黙知を理解するとともに、具体的な行動へとつなげることができる。 ③地域社会を支える仕事や人について、具体的に説明できる。 ④現時点における自分の人生のイメージ(仮説)を言葉にして表すことができる。			
成績評価の方法と基準 授業への取り組み姿勢及び各回提出のミニレポート(60%)および期末レポート(40%)をもとに判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション(香川県労働政策課長の趣旨説明含む)・市民としての責任感と倫理観 第2回 講義 代表的なキャリア理論 第3回 講話① 高松琴平電気鉄道株式会社 代表取締役社長 真鍋 康正 氏 第4回 講話② 香川県 危機管理総局危機管理課 防災指導監 松村 朝生 氏 第5回 講話③ 株式会社マルナカ 人事教育統括部教育訓練部採用課 課長 中川 尚子 氏 第6回 講話④ 香川県健康福祉部健康福祉総務課 医療主幹 横山 勝教 氏 第7回 講話⑤ 株式会社ゴーフィールド 代表取締役会長 森田 桂治 氏 第8回 講義 まとめ(提出レポートの作成要領の説明を含む)			
【授業および学習の方法】 香川県の協力・支援のもと、様々な業界から職業人(計5名)を講師として招聘する。人事異動や業務の都合やアクシデント等により登壇者が予告なく変更になる場合もある。なお、登壇者の所属・役職名は令和2年2月時点のものである。			
【自学自習のためのアドバイス】 第1～2回 大学生生活4or6年間及び卒業後の進路について深く考察し、おおよそのスケジュールを把握する 第3～7回 各ゲスト講師の所属する業界や職業上の特徴について調べるとともに、自己への適性を測る 第8回 ここまでの授業での学びについて、自己のキャリア形成にどのように活かすかを明確にするため、具体的な行動に結びつける計画を立案する			
【注意事項】 ① ゲスト講師は、授業終了後も時間の許す範囲で残っていただくので、質問・お礼・挨拶を通して異世代とのコミュニケーション能力を高め、縁をつくる機会として活かしてほしい。 ② ミニレポートの提出を持って出席確認とします。出席していない回のミニレポートは提出することが出来きません。			

③ 本講義は「地域で活躍する職業人に学ぶ ～地域を元気に編～」(第2Q)とゲスト講師が異なりますので、当然内容も違っております。各々の登壇者が所属する業界・組織・職種等を必ずよく確認してから履修してください。

教科書・参考書等

各講、レジュメを配布する。

オフィスアワー [原則] 水曜日 10～12時 キャリア支援センター(大学会館2階)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・欠席した回はミニレポートを提出できません。受けていない講話のレポートを提出することは不正行為とみなします。

・外部講師を招聘しますので、ケアレスミスの遅刻などないように特に留意してください。

・ゲスト講師は第1Q、第2Qともに5名です。各々の登壇者が所属する業界・組織・職種等を必ずよく確認して、より自分のキャリアに活かせる方を履修してください。

・本講義の履修者は、空席があれば主題A「人生とキャリア」地域で活躍する職業人に学ぶ～地域を元気に編～(第2Q)の聴講も1～5回まで許可しますので、筒井まで申し出てください。

教員の実務経験との関連

2級キャリア・コンサルティング技能士[サラリーマン(営業・広報・人事)・旅館経営・公務員特別職・企業研修講師等]の実務経験をもとに講義を行います。

ナンバリングコード B1THA-dxxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000012) 主題A「人生とキャリア」 Life and Career 地域で活躍する職業人に学ぶ ～地域を元気に編～ Role Models of Life in Rural Communities second period	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 2Q月5	対象年次 1～
	水準 学士: 入門科目 分野 主題A	提供部局: 大教センター DPコード: dxx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 筒井 徹也	関連授業科目 主題A「地域で活躍する職業人に学ぶ」～未来へ羽ばたけ編～		
	履修推奨科目 主題C「地域理解」－実践型科目 地域貢献人財育成 実践講座Ⅰ 主題C「地域理解」－実践型科目 地域貢献人財育成 実践講座Ⅱ		
学習時間 授業90分×7講＋授業45分×1講＋自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 本授業では、地域の各分野で、職業人として地域社会を支え、生き様を通じて周囲に活力を与えている人達がいることを紹介する。ゲスト講師講話では、各学部の進路に関係の深い業界から、ロールモデルとして紹介したい職業人を招聘し、業界の動向や具体的な仕事、その方の志を語って頂く。また、学生がキャリアを考える際に、具体的に活用できる代表的なキャリア理論を講義する。			
授業の目的 学生が、自らのキャリア(個々人における生涯にわたる生き方)をデザインし、そのステージにおける「人財」になっていくことを支援するため、本授業は、学生が、①キャリアに関する基本知識を理解すること、②各界のロールモデルの生き方や働き方のリアリティに触れること、③視野・見識を広げ、キャリアの選択肢を広げること、を目的にしている。			
到達目標 ①社会において自己が果たすべき役割や、市民としての責任ある行動について理解を深め、そこから自己や社会の未来について考えることができる。(共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応) ②自己のキャリア形成に役立つ基礎知識や暗黙知を理解するとともに、具体的な行動へとつなげることができる。 ③地域社会を支える仕事や人について、具体的に説明できる。 ④現時点における自分の人生のイメージ(仮説)を言葉にして表すことができる。			
成績評価の方法と基準 授業への取り組み姿勢及び各回提出のミニレポート(60%)および期末レポート(40%)をもとに判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション(香川県労働政策課長の趣旨説明含む)・市民としての責任感と倫理観 第2回 講義 代表的なキャリア理論 第3回 講話① 香川県 教育委員会事務局義務教育課 主任指導主事 坂本 幸治 氏 第4回 講話② 四国化成工業株式会社 総務・人事部人事課 係長 北川 龍一郎 氏 第5回 講話③ 高松信用金庫 総務部 係長 杉浦 健介 氏 第6回 講話④ 株式会社味のちぬや 管理部管理課 係長 石川 智己 氏 第7回 講話⑤ 株式会社サンテック 代表取締役社長 青木 大海 氏 第8回 講義 まとめ(提出レポートの作成要領の説明を含む)			
【授業および学習の方法】 香川県の協力・支援のもと、様々な業界から職業人(計5名)を講師として招聘する。人事異動や業務の都合やアクシデント等により登壇者が予告なく変更になる場合もある。なお、登壇者の所属・役職名は令和2年2月時点のものである。			
【自学自習のためのアドバイス】 第1～2回 大学生生活4or6年間及び卒業後の進路について深く考察し、おおよそのスケジュールを把握する 第3～7回 各ゲスト講師の所属する業界や職業上の特徴について調べるとともに、自己への適性を測る 第8回 ここまでの授業での学びについて、自己のキャリア形成にどのように活かすかを明確にするため、具体的な行動に結びつける計画を立案する			
【注意事項】 ① ゲスト講師は、授業終了後も時間の許す範囲で残っていただくので、質問・お礼・挨拶を通して異世代とのコミュニケーション能力を高め、縁をつくる機会として活かしてほしい。 ② ミニレポートの提出を持って出席確認とします。出席していない回のミニレポートは提出することが出来きませ			

ん。

③ 本講義は「地域で活躍する職業人に学ぶ ～未来へ羽ばたけ編～」(第1Q)とゲスト講師が異なりますので、当然内容も違っております。各々の登壇者が所属する業界・組織・職種等を必ずよく確認してから履修してください。

教科書・参考書等

各講、レジュメを配布する。

オフィスアワー [原則] 水曜日10～12時 キャリア支援センター(大学会館2階)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・欠席した回はミニレポートを提出できません。受けていない講話のレポートを提出することは不正行為とみなします。

・外部講師を招聘しますので、ケアレスミスの遅刻などないよう特に留意してください。

・ゲスト講師は第1Q、第2Qともに5名です。各々の登壇者が所属する業界・組織・職種等を必ずよく確認して、より自分のキャリアに活かせる方を履修してください。

教員の実務経験との関連

2級キャリア・コンサルティング技能士[サラリーマン(営業・広報・人事)・旅館経営・公務員特別職・企業研修講師等]の実務経験をもとに講義を行います。

ナンバリングコード B1THA-dxxG-10-Lg1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000013)	主題科目	1Q金2	
主題A「人生とキャリア」 Life and Career	水準 学士: 入門科目 分野 主題A	提供部局: 大教センター DPコード: dxx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
キャリアデザインと職業適性 イ Career Design and Vocational Aptitude	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 筒井 徹也	関連授業科目		
	履修推奨科目 主題C「地域理解」－実践型科目 地域貢献人財育成 実践講座Ⅰ 主題C「地域理解」－実践型科目 地域貢献人財育成 実践講座Ⅱ		
学習時間 授業90分×7講＋授業45分×1講＋自学自習（準備学習15時間+事後学習15時間）			
授業の概要			
本授業では、「自分は何がやりたいのか」また「自分には何が向いているのか」と考える学生を主な対象に、キャリアデザインおよび職業適性についての講義を行う。中心となる考え方は、時間軸によって好ましいものの意味（What）と意義（Why）の変化を認識しつつ、キャリアの棚卸しによって職業適性への考察を深めるというものである。また、限られた学生生活期間において、何を取捨選択するべきかの論理的な考え方についても演習問題を通してレクチャーする。			
授業の目的			
自分自身のキャリアをデザインするため、キャリア形成のプロセスを理解するとともに、ステージごとに自己の目標を設定するための授業である。学生が、①キャリアに関する基礎知識を理解すること、②視野・見識を広げ、キャリア形成の選択肢を広げること、③キャリアにおいて長期的かつ戦略的な取り組みが可能となるスキルの獲得を目的にしている。			
到達目標			
①社会において自己が果たすべき役割や、市民としての責任ある行動について理解を深め、そこから自己や社会の未来について考えることができる。（共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応） ②キャリアにおける自己の興味・適性・能力を認識し、各々の項目を増やしていける。 ③自らの気づきや感情を言語化したうえで、自己のキャリアデザインに反映することができる。			
成績評価の方法と基準			
授業への取り組み姿勢や提出レポートを中心に平常の評価を行う。期末レポートの評価をそれに加味して総合評価を行う。（各回ミニレポート30%、授業への取り組み姿勢20%、最終レポート50%）			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1回 オリエンテーション. 市民としての責任感と倫理観 第2回 キャリア形成に必要な自己理解と相手理解 第3回 人はなぜ働くのか「学生の自覚と社会人の自覚」 第4回 キャリアアンカーから深める自己理解 第5回 新旧の就職活動事情とその変化への対応 第6回 労働条件とブラック企業 第7回 なぜ若者は短期離職してしまうのか 第8回 講義 まとめ（職業選択あれこれ）			
【授業および学習の方法】			
本授業は、講義とグループワークからなる。			
【自学自習のためのアドバイス】			
理論を学ぶだけでは自己のキャリアデザインを構築することは難しい。授業で学んだ内容を自分のこととして考えたり、自分自身に疑問を投げかけ何を思い感じるかが肝要である。授業の効果をキャリア形成に最大限に活かすことを期待する。具体的には以下の内容について自学自習に取り組んでほしい。			
① 世の中にどのような職業があるのかを書籍やネット等で調べ、各々の職業の社会的役割や自分との適性を検討する。			
② 過去の経験から「自分」という人間の能力や特性を把握し、幸福へと続く未来像を構想する。			
③ 各種のインターンシップ（低学年向け）や就職イベント等に参加し、その体験を通して自己の職業感を醸成する。			
【授業修了後の課題】			
当授業の扱う内容は講義期間中だけのものではない。就職活動や仕事へと活かしていくために、以下の内容についても自学自習を継続することをお勧めする。			

① 新卒採用における労働条件（職務内容・給与・休日・勤務時間 等）の世間相場を把握するとともに、自分にとって優先順位の高い条件を獲得するために必要なスキルや職業・職種等を明確にする。

② 常識レベルの労働法について理解するとともに、法律や各企業の定める就業規則から逸脱しない行動規範を身につける。

教科書・参考書等

適宜レジュメや参考資料等を配付

オフィスアワー [原則] 水曜日 10～12時 キャリア支援センター（大学会館2階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・グループワークでは途中からの出席を認めない場合があるので、ケアレスミスでの遅刻がないように留意すること。

・本講義は主題A キャリアデザインと職業適性 ロ（第3Q）と同じ内容である。

教員の実務経験との関連

2級キャリア・コンサルティング技能士〔サラリーマン（営業・広報・人事）・旅館経営・公務員特別職・企業研修講師等〕の実務経験をもとに講義を行います。

ナンバリングコード B1THA-dxxG-10-Lg1	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 3Q金2	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000014)	水準 学士: 入門科目 分野 主題A	提供部局: 大教センター DPコード: dxx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
主題A「人生とキャリア」 Life and Career	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
キャリアデザインと職業適性 ロ Career Design and Vocational Aptitude			
担当教員名 筒井 徹也	関連授業科目		
	履修推奨科目 主題C「地域理解」－実践型科目 地域貢献人財育成 実践講座Ⅰ 主題C「地域理解」－実践型科目 地域貢献人財育成 実践講座Ⅱ		
学習時間 授業90分×7講＋授業45分×1講＋自学自習（準備学習15時間+事後学習15時間）			
授業の概要			
本授業では、「自分は何がやりたいのか」また「自分には何が向いているのか」と考える学生を主な対象に、キャリアデザインおよび職業適性についての講義を行う。中心となる考え方は、時間軸によって好ましいものの意味(What)と意義(Why)の変化を認識しつつ、キャリアの棚卸しによって職業適性への考察を深めるというものである。また、限られた学生生活期間において、何を取捨選択するべきかの論理的な考え方についても演習問題を通してレクチャーする。			
授業の目的			
自分自身のキャリアをデザインするため、キャリア形成のプロセスを理解するとともに、ステージごとに自己の目標を設定するための授業である。学生が、①キャリアに関する基礎知識を理解すること、②視野・見識を広げ、キャリア形成の選択肢を広げること、③キャリアにおいて長期的かつ戦略的な取り組みが可能となるスキルの獲得を目的にしている。			
到達目標			
①社会において自己が果たすべき役割や、市民としての責任ある行動について理解を深め、そこから自己や社会の未来について考えることができる。(共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応) ②キャリアにおける自己の興味・適性・能力を認識し、各々の項目を増やしていける。 ③自らの気づきや感情を言語化したうえで、自己のキャリアデザインに反映することができる。			
成績評価の方法と基準			
授業への取り組み姿勢や提出レポートを中心に平常の評価を行う。期末レポートの評価をそれに加味して総合評価を行う。(各回ミニレポート30%、授業への取り組み姿勢20%、最終レポート50%)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1回 オリエンテーション. 市民としての責任感と倫理観 第2回 キャリア形成に必要な自己理解と相手理解 第3回 人はなぜ働くのか「学生の自覚と社会人の自覚」 第4回 キャリアアンカーから深める自己理解 第5回 新旧の就職活動事情とその変化への対応 第6回 労働条件とブラック企業 第7回 なぜ若者は短期離職してしまうのか 第8回 講義 まとめ（職業選択あれこれ）			
【授業および学習の方法】			
本授業は、講義とグループワークからなる。			
【自学自習のためのアドバイス】			
理論を学ぶだけでは自己のキャリアデザインを構築することは難しい。授業で学んだ内容を自分のこととして考えたり、自分自身に疑問を投げかけ何を思い感じるかが肝要である。授業の効果をキャリア形成に最大限に活かすことを期待する。具体的には以下の内容について自学自習に取り組んでほしい。			
① 世の中にどのような職業があるのかを書籍やネット等で調べ、各々の職業の社会的役割や自分との適性を検討する。			
② 過去の経験から「自分」という人間の能力や特性を把握し、幸福へと続く未来像を構想する。			
③ 各種のインターンシップ（低学年向け）や就職イベント等に参加し、その体験を通して自己の職業感を醸成する。			
【授業修了後の課題】			
当授業の扱う内容は講義期間中だけのものではない。就職活動や仕事へと活かしていくために、以下の内容についても自学自習を継続することをお勧めする。			

① 新卒採用における労働条件（職務内容・給与・休日・勤務時間 等）の世間相場を把握するとともに、自分にとって優先順位の高い条件を獲得するために必要なスキルや職業・職種等を明確にする。

② 常識レベルの労働法について理解するとともに、法律や各企業の定める就業規則から逸脱しない行動規範を身につける。

教科書・参考書等

適宜レジュメや参考資料等を配付

オフィスアワー [原則] 水曜日 10～12時 キャリア支援センター（大学会館2階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・グループワークでは途中からの出席を認めない場合があるので、ケアレスミスでの遅刻がないように留意すること。

・本講義は主題A キャリアデザインと職業適性 イ（第1Q）と同じ内容である。

教員の実務経験との関連

2級キャリア・コンサルティング技能士〔サラリーマン（営業・広報・人事）・旅館経営・公務員特別職・企業研修講師等〕の実務経験をもとに講義を行います。

ナンバリングコード B1THA-dbxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000015) 主題A「人生とキャリア」 Life and Career 学ぶ・働く・生きる learning, working and living	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 1Q木5	対象年次 1～
	水準 学士: 入門科目 分野 主題A	提供部局: 大教センター DPコード: dbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 小方 直幸	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回+ (まとめ45分+試験45分) ×1回+自学自習			
授業の概要 あなたはなぜ大学に進学しようと考え、そして今の大学・学部を選びましたか。そして、これからの172,800分をどう使うつもりですか。これまでのあなたの学びを振り返り、卒業後の仕事や働き方に思いをめぐらせ、そして人生100年時代をどのように生きるかを、仲間と対話しながら考えます。			
授業の目的 自身の学び、卒業後の仕事、そして生き方をまずは考え、それを授業の仲間と交流することでブラッシュアップし、他者の生き方も受け容れつつ、自身の将来を見据え、倫理観に裏付けられた責任ある市民に向けた準備をすること。			
到達目標			
1. 学ぶこと・働くこと・生きることとは何かを考えるための下地を作れること 2. 自らの経験や考えを他者と共有することで、自身と他者の生き方をより理解できるようになること (共通教育スタンダード⑤) 3. 在学中の過ごし方を、学び・働く・生きる、を踏まえて設計できるようになること			
成績評価の方法と基準			
授業時の取組60% (到達目標1と2に対応)、試験40% (到達目標3に対応)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1: 学ぶとは～これまでの学びを振り返る 2: 大学での学び 3: 働くとは～将来の職業を展望する 4: 仕事の意味・意義 5: 生きるとは～自身の将来を設計する 6: 市民になることと人生の捉え方 7: 大学生活における学ぶ・働く・生きる 8: まとめと試験 【自学自習について】 学ぶ、働く、生きるをそれぞれ2回セットで行う予定です。これまでの自身の生き方や考え方をテーマごとに予め振り返った上で授業にのぞみ、授業で得た知識・考え方を、さらに受講者間での交流によりブラッシュアップし、当初の考え方と比較し、今後の学生生活ひいては卒業後の生活の指針としていってください。			
教科書・参考書等			
資料は授業時に配布します			
オフィスアワー 木曜4限 8号館4階			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
この授業はグループワークを重視しているため、受講生は100名程度とします			

ナンバリングコード B1THA-dbcG-10-Lx1	科目区分 主題科目	時間割 2020年度 3Q木5	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000016)			
主題A「人生とキャリア」 Life and Career	水準 学士: 入門科目 分野 主題A	提供部局: 大教センター DPコード: dbc	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
男女共同参画の視点からライフデザインを考える Life design from the perspective of gender equality	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 柴田 潤子 他	関連授業科目 「働く喜び」「生活と法」		
	履修推奨科目 「働く喜び」「生活と法」		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
価値観の多様化が進む社会の中で、自分らしい生活・ライフデザイン・キャリアを設計・形成することは、益々重要となっている。本授業では、「男女共同参画」を基軸とした価値観をライフデザインにどのように位置づけていくかを考えるための講義を提供する。 多様な分野で活躍されている教員、実務家によるオムニバス形式によって、男女共同参画・ダイバーシティをめぐる様々な現代的課題について講義をする。			
授業の目的			
生き方を取り巻く環境の変化に伴い、人間の生き方は大きく変わると予測され、前の世代の人生をコピーするだけでは幸せに生き抜けられない時代が到来している。本授業では、長い人生において、様々な価値感が存在する社会で「男女共同参画社会」という価値観を共有し、人間の尊重を基礎に据えた、自分らしいライフデザインを考えることができるようにする。			
到達目標			
1. 現代社会における「男女共同参画」の意義を述べることができる。 2. 「男女共同参画」社会の実現に向けた自らのライフプランを述べることができる。 (共通教育スタンダード ①「課題解決のための汎用的スキル」幅広いコミュニケーション能力、③「21世紀の会の諸問題に対する探求能力」④ 市民としての責任感倫理観に対応)			
成績評価の方法と基準			
授業中に課すミニレポート(20%、到達目標1)、レポート(80%、到達目標1, 2)で評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 「男女共同参画推進社会」について総論-「どんな個人も尊重して生きられる社会を目指して」 内閣人事局(女性活躍促進・ダイバーシティ担当) 永田真一先生/男女共同参画推進室長・四国グローバルリーガルセンター長 柴田潤子教授 第2回 「幸福な結婚のために: 両性の尊重と社会的役割」 男女共同参画推進室副室長 清水裕子教授 第3回 「子育て家庭の現状と課題」 NPO法人わははネット理事長 中橋恵美子先生担当 第4回 「労働法をめぐる課題」 香川労働局 第5回 「ジェンダーと法」 大阪大学法学研究科 島岡まな教授 第6回 「ジェンダーの視点で考える『社会』と『法』」 香川県弁護士 佐藤倫子先生 第7回 「ライフデザインを考える」 ゲストスピーカー/柴田潤子教授 第8回 「ジェンダー概論(アメリカの現状と課題)」 Louis D. Brandeis School of Law, 教授 Jamie R. Abrams			
第1週のガイダンスで授業の概要を説明し、評価方法等についての情報を伝える。 なお、講師及び授業内容、順序には講師の都合で若干変更が生ずる事がある。 最終回の授業開始前にレポートを提出してもらう事になるので、各回の講義に参加し関心を持った分野についてのリサーチを加え、レポートを作成する。準備学習として、男女共同参画に関する問題について自分なりに情報を集め、考察を行い、事後学習としては、講義の内容を基に他の文献等を参考にして、自らの考えを整理する。			
授業の冒頭に出席カード、レジュメを配布する。			
教科書・参考書等			
特になし。			
オフィスアワー 四国グローバルリーガルセンター(北5号館1F)、男女共同参画推進室(北5号館1F)の開室時間(9時半から16時半)。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
授業出席の際には、各回の授業修了後、毎回出席カード(授業の感想等を簡単に記載する。)を提出する。			
教員の実務経験との関連			
子育て支援や男女共同参画に関わる実務経験、実務家(弁護士・労働局)経験にもとづき、講義を行います。			